



仲山 ワークシェアは週4日か週3日の勤務、あるいは1日の勤務時間を6時間か4・5時間にするという制度です。私は週4日勤務と、短時間の制度の両方使わせていただきました。

澤木 育児短時間制度とワークシェアというのは、具体的にどのような働き方ですか？

仲山 はい、ホスピス病棟で働いています。1人目の子どもが生まれた時は、育児短時間制度を使わせていただいて、2人目の時にも育児短時間制度とワークシェア制度を使わせていただきました。職場には大きな負担をかけましたが、皆さんの助けをいただきながら、仕事を続けてきました。今は、子どもが10歳と8歳になってるので、今度私がしてもらったことを返す番だなと思いつつ仕事をしています。

澤木 仲山さんは2人のお子さんを育てながら、聖隷三方原病院で看護師係長をしていらっしゃるということですよね。

語と実際の日本語が違うので、最初はびっくりしました。方言もありますし(笑)。日本人の職員に聞きながら理解しました。私たちも大変ですが、周りの日本人の職員も大変かもしれません。本当に助けてもらっています。仕事のことを詳しく教えてくれて、間違えたところがあれば、丁寧に優しく教えてくれるので、本当にありがたいと思います。



ダイバーシティを聖隷の強みに

少子高齢化の中で人材を確保し、質の高いサービスを提供し続けるために、「ダイバーシティ&インクルージョン」経営が重要となります。様々な背景を持ちながら聖隷福祉事業団の一員として活躍する5人の職員に山本理事長、元SBSアナウンサー澤木久雄氏がお話を聞きました。

それぞれの背景、そして職場の理解は？

澤木 今日はこれからの日本の課題でもあり、聖隷福祉事業団(以下、聖隷)が既に取り組んでいる「ダイバーシティ&インクルージョン」について考えたことと皆さんにお集まりいただき「ダイバーシティ」は多様性、「インクルージョン」は、包摂、包み込むという意味になり、様々なバックグラウンドを持つ人々が、お互いを認め合って、仕事をすることが求められるということだと思います。

山本 私が、子どもを持つ女性職員の大変さを何とかしないとけないと思ったのが1990年頃です。それと、障がいのある方が、大人になって仕事ができる環境がないことにも気づきました。それで職員の働く環境を整えるのが自分の仕事だと考えるようになったのです。今日、改めて皆さんの声を聞いて参考にしたいと思っています。率直なご意見をお願いします。

中野 私は保健事業部の事業管理部情報システム課に所属し、健康診断を受けた方や企業に対して、結果データの作成をしています。私は足に障がいがあります。職場では良い意味で障がい者扱いをされていなくて、一職員として、他部署の方も含めて接してもらえているので、気を遣わずに働くことができています。

澤木 子育て中の職員にとっては、とても助かる制度と言えますか？

仲山 そうですね。当院でも1000人くらいの看護職員が利用しています。

澤木 そのような制度を利用している方が、一番悩むのはどのようなことですか？

仲山 残った仕事を誰かに頼んで帰らなければいけないことに、心苦しさを感ずる人は多いですね。そこは、割り切って頼んで帰らなきゃだめだよと伝えています。

山本 責任をもって最後までやりたい、という心残りはあるでしょうね。その反対に、誰かにやってもらうのが当たり前という気持ちでは、引き受ける人も複雑ですよ。サポートされる側とする側のコミュニケーションや気遣いは大事になりますね。

仲山 そうですね。当たり前だと思うと、他の職員と気持ちが悪くしてしまうと思いますが、そういうことは意外となくて、自分がしてもらったから、今度は全力で早く帰ってあげようという良い循環ができています。

山本 上手くフォローし合う風土があるから職員が産後・育児がしやすい、1年間に500人の赤ちゃんが誕生しているのですね。

平野 私が出産した30年前には、育児休暇を1年、もしくは育児時間を子が満1歳になるまで取得するかどうかでした。ここまで制度が整っているの

ができています。

澤木 聖隷全体で、障がい者雇用の職員の方が200人以上いらっしゃるそうですね。一職員として能力を評価されているという実感はありますか？

中野 はい、あります。仕事で評価されることはやはり嬉しいですね。さらに上を目指そうという意欲も湧きます。

澤木 素晴らしいですね。マイロさんは「和合愛光園」で働いていらっしゃるんですけども、日本に来てからのことや仕事内容について教えてください。

マイロ 「和合愛光園」で4年間介護の仕事をしていました。去年、介護福祉士の試験に合格しました。責任や役割が増えたので毎日が勉強です。

澤木 日本語がずいぶんお上手ですね。フィリピンでも日本語の勉強をしてきたんですか？

マイロ はい、EPA介護福祉士候補者のプログラムで、6カ月間、母国で日本語の勉強をして、日本に来てからも日本語と介護の研修を受けました。その後は浜松に来て、仕事をしながら3年間日本語と介護の勉強をしました。私は最初から介護福祉士の資格取得を目指していたので、そのために毎日頑張りました。

山本 3年で試験に合格したなら素晴らしいですね。利用者さんとコミュニケーションを取ることは難しくないですか？

マイロ 難しいですね。勉強した日本

は本当に凄いなと思います。聞いていて涙が出そうになりました。

澤木 大きな変化を感じていらっしゃるんですね。山田さんは、聖隷浜松病院で臨床検査技師をしていらっしゃると思いますが、エルダーとして1年目を迎えられるんですね。

山田 エルダーになっても仕事内容はほとんど変わりません。細胞診断や病理標本の作成、手術によって切り取られた組織を診断に適した標本にして病理医に診断してもらうという仕事をしています。

澤木 専門性の高いお仕事ですから、経験が財産ですよ。

山田 そうですね。若い人に少しずつ伝えながら、私自身も受け持つ仕事には責任を持って、という感じで仕事をしています。

山本 いいですね、知識も経験も一生ものだから、ぜひ続けて欲しいですね。
澤木 平野さんは保健事業部で保健師次長として今お仕事をされていますが、ご病気も抱えていらっしゃるということですね。

平野 保健看護管理室の教育担当の次長を務めています。私自身、5年前に肺に影が見つかって手術をしました。肺の片方を取り、その後、抗がん剤治療を半年間行いました。抗がん剤治療は、1カ月間おきに6回行います。治療を行った日から1週間くらいは仕事ができる状態ではないのでお休みをし、次



DIVERSITY & INCLUSION

の治療まで仕事をする、という繰り返して仕事をしながら治療をさせていたできました。

澤木 その経験から学ばれたことはあるのでしょうか？

平野 そうですね。その時は、お客様の前に出る部署でなかったことが、すごくありがたかったので、治療中の方には、病気や治療の状況に合わせて、なるべくお客様の前に出なくてもいい仕事にするなど配慮しています。障がいのある方には、その人の能力や特性を活かして仕事を担当してもらい、やりがいを持って働けるように一緒に考えてきました。

山本 管理職はどうしても患者さんや利用者さんに目が向かいがちで、職員のことを見落としてしまうこともある

と思います。聖隷の長い歴史の中では、病気を抱えていたり、夜勤ができない人に対して配慮が足りなかったこともありました。今、様々な状況に合った働き方を選択できるように変わったのは良いことだと思います。

平野 勤続30年の中で、その変化を肌で感じます。本当に働きやすくなったんじゃないかな。障がい者の方も200人いて、子育て中の方もっと大勢いるでしょうし、がん治療と両立しながら働いている職員もいる。一人ひとりの職員を見てくれているんだな、という感じがします。

山本 働き方に悩んでいる職員に対して、様々な制度やシステムがあるというところをしっかりと伝えて、もっと申請しやすい風土にしていきたいと思



として来日しています。将来はマネージャーとしての活躍も期待しています。

仲山 ホスピスは静岡県西部に一つしかないこともあって、かなりニーズが高い施設になっていてと感じていました。ただ、27床しかないのに、入りたかったけど入れなかった、という方も結構いらっしやいます。今後は、在宅ホスピスのようなカタチで、患者様の力になれるといいな、と思っています。

澤木 では、山田さんです。まだまだ人生長いですよ。

山本 61歳なら、まだまだ若いよ(笑)。

山田 これまでに25回の学会発表、教育講演、セミナーを行っていて、国際学会での発表もしています。もう1度、英語論文を書こうと思っています。それと、25歳頃から趣味で山登りをして

いますけど、今、二百名山が百七十まできているので、二百名山目指したいと思っています。他にも自転車や淡路島1周や琵琶湖1周もしたいし、クラシックギターもやっていて、1枚CDを出しています。2枚目を出したいなあ。

澤木 非常に多趣味ですね。趣味がこれからの人生を輝かせてくれそうですね。

山田 趣味が仕事の刺激になっているので、しっかり仕事をして、しっかり休んで、やりたい事をやるという充実感重要だと思っています。

平野 私は、特に産業界や保健師がいない事業所に対して、健康診断結果を活かして、働く人々の健康を幅広くサポートできるように貢献していきたいと思っています。

澤木 若手の育成だけでなく、当事

せんね。

これからの夢や目標について

澤木 それでは、皆さんのこれからの夢、抱負、目標を教えてください。

中野 私は後天性で障がいを持ったので、この先どうやって生きていけばいいのかという不安はともありません。障がいのある人たちに、私が当たり前のよう働いている姿を見てもらえれば、少し希望を持ってもらえるのでは、と思っています。新しくできた聖隷三方原病院 地域障がい者総合リハビリテーションセンターに携わって、障がい者の支援とか、障がい者スポーツで力を発揮できればいいなと強く思っています。

マイロ 私は、介護福祉士の資格だけでなく、もつとステップアップし、ケアマネジャーの資格を目指します。それと、これからもフィリピンやベトナムなどから新しい後輩たちが来ると思うので、今、外国人スタッフがいない施設にも、EPA介護福祉士候補者のことをしっかりと伝えて理解してもらいたい気持ちもあります。

山本 制度そのものが、まだ理解されていない部分がありますね。母国で看護大学を卒業するなど、専門教育を受けた優秀な人材がEPA介護福祉士候補者

者として貢献したいということですか？

平野 そうですね、若い人よりも年配の方が相談しやすいという方もいると思うので。それと、自分の病気の経験を活かして、民間企業の人事労務、衛生管理などの担当者力になれるといいかなと考えています。

澤木 ありがとうございます。「ダイバーシティ&インクルージョン」が進んでいることがよくわかりました。また、皆さんの頑張りが周りを刺激して、職場の活性化に繋がっているということもうかがえます。

山本 多様な価値観を持つ人材を受け入れ、活躍し、成長できる風土であることが聖隷の強みです。だからこそ、女性や、病気・障がいのある方、外国人の方、高齢者の方などが働きやすい環境を整えることが重要だと考えています。皆さんに聖隷は働きやすいと言っていた良かったですけど、100周年に向けてこれからも改善は続けなければいけないですね。とても参考になりました。今日はありがとうございました。

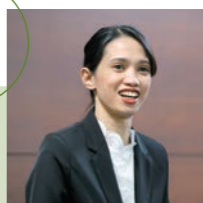
澤木 貴重な人材である皆さんが、今後もそれぞれの持ち場で、活躍されることを期待したいと思います。ありがとうございます。



GUEST 01

保健事業部 事業管理部情報システム課 中野 琢也 さん

2007年1月入職。足に後天性の障がいがあり、義足で勤務。シッティングバレーの日本代表選手として、インドネシア2018アジアパラ競技大会出場。



GUEST 02

在宅・福祉サービス事業部 和合愛光園 ケアサービス課 エロップレ・マイロさん

2015年12月入職。フィリピンからEPA*介護福祉士候補者として来日。2019年に介護福祉士の資格を取得。



GUEST 03

聖隷三方原病院 ホスピス 仲山 理奈 さん

2003年4月入職。育児休暇、時短勤務、ワークシェア制度を利用し、2人の子どもを出産・育児。現在、看護師係長。



GUEST 04

聖隷浜松病院 臨床検査部 山田 真人 さん

1986年4月入職。聖隷浜松病院臨床検査技師として32年間勤務。2018年5月よりエルダー職員*となる。



GUEST 05

保健事業部 保健看護管理室 平野 幸子 さん

1988年5月入職。肺に悪性リンパ腫を患い、2014年に手術。治療をしながら、教育担当次長として後進の育成に努める。



GUEST 06

インタビュー 澤木 久雄 氏

元SBSアナウンサー、浜松市出身。「テレビタカ」リレー中継など幅広い番組に出演。現在はフリーアナウンサーとして活躍。

*エルダー職員…60歳の定年退職後、引き続き雇用される再雇用職員。満65歳の誕生日の属する年度の末日まで継続することができる。

*EPA…経済連携協定(Economic Partnership Agreement)の略称。関税の撤廃や規制緩和により物流やサービスの自由化を目指す条約である自由貿易協定(FTA:Free Trade Agreement)を基に、人の移動や投資など幅広い分野での親密な関係を強化することを旨とする条約。